≪共に学ぶ≫ 第 16 回市民教養講座（2019, No4）

テーマ:「海という世界を生きる魚たち」

日時: 3 月 1 日(日)　10:00～12:00

会場: 旧若葉台西中学校木工室

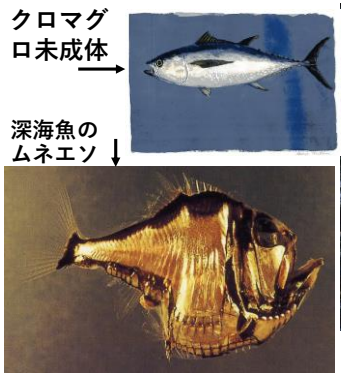
講師:東京大学名誉教授　渡邊良朗先生

（現「中国海洋大学客員教授）

参加費：500 円（資料代、コーヒー付き）

小・中学生、高校生は無料

海水に満たされた海という世界の魚たちは、大気におおわれた陸という世界の動物とはまったく異なる生きざまを見せる。マグロの卵の直径は 1.0 mm でイワシの卵より小さい。ダチョウの卵はスズメの卵よりずっと大きいという陸の常識は、海では通用しない。小さな卵を産む海の魚では「卵の数」が親の大きさに比例し、イワシは数万、タイは数百万、マグロは数千万もの卵を産むのだ。



マイワシ群

小さな卵から生れたばかりのマグロの体重は 0.5 mg しかないが、親になると 200 kg を超え、体重で 4 億倍という驚異的な成長を見せる。生れたばかりの仔魚は海水中を漂うプランクトンだ。巣の中で親に守られて育つ雛とは違って、海流や潮流に運ばれて生れた場所から数百 km も遠くへばらまかれてしまう。えさが豊富な海にたどり着くことができたごくわずかの仔魚だけが生き残る。陸上の動物とはまったく異なる海の魚の生きざまを、「海という世界を生きる」という目で見てみよう。

主催：電子顕微鏡でミクロを観る会（連絡先　VOSC 事務所）

（この事業は（公）東京応化科学技術振興財団の「科学教育の普及啓発助成事業」の助成を受けています）

@@@